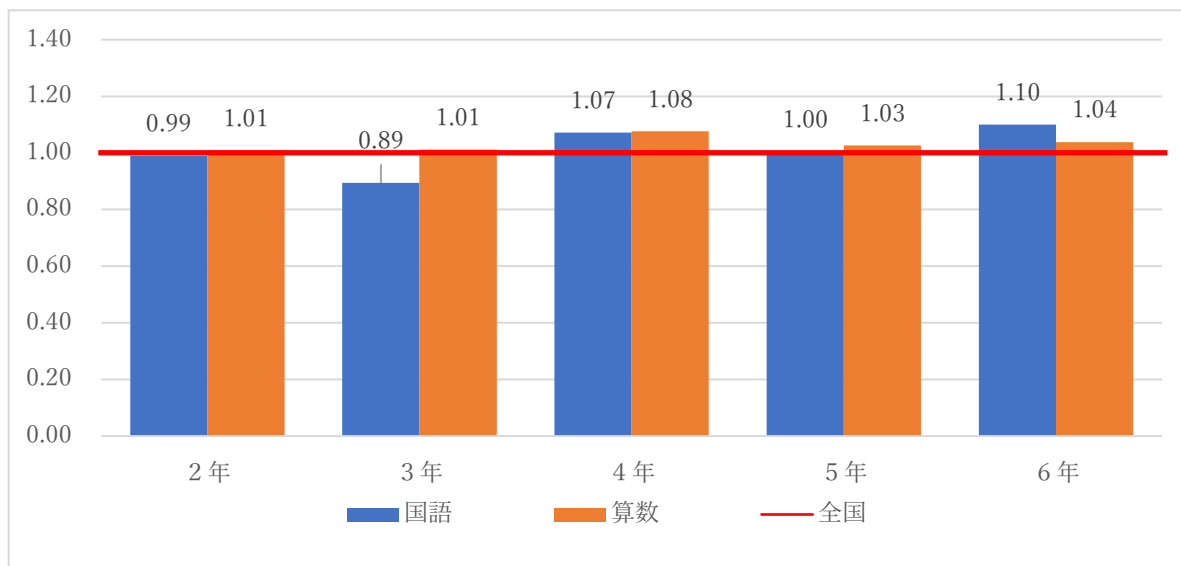


令和5年度 全国学力・学習状況調査及び学習到達度調査について

第十中学校区 三井小学校

○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



※小学2～5年生は学習到達度調査、小学6年生は全国学力・学習状況調査の結果

○調査結果についての分析、今後の改善方策

学習到達度調査	国語	全体的に自分の意見や考えを表現する等「書くこと」領域で正答率が低かった。引き続き、日々の学習の中で、自分の意見等をしっかりと書くことを繰り返したり、友だちの意見を聞いて自分の意見と比べて考えたりすることを大切にしていく。
	算数	「図形」領域における問題の得点率がやや低く、基本的な立体図形や展開図・見取り図を用いた練習問題を日々繰り返していくことが必要である。
全国学力・学習状況調査	国語	基礎基本である「言葉の特徴や使い方に関する事項」が他の事項に比べて正答率が高い結果であった。また、「話すこと・聞くこと」領域も全国平均を上回っており、日常からグループ活動等を取り入れている成果であると考えられる。
	算数	全領域の中で「数と計算」領域の平均正答率が71.3%と全国平均より高い結果であった。「変化と関係」領域の正答率は他と比べてやや低く、課題となっているため、演習を重ねることで課題克服を図っていく。
	質問紙	「読書は好きですか」の回答率が74%と全国平均より上回った。本校の「読書ノート」の取組が子どもたちの読書への意欲を高めていると考えられる。

○学力向上の取組

【 中学校区 】

中学校区として、学力向上への取組を各小中一貫部会にて、組織的に取り組んでいく。また、校区における三校の授業交流を通して授業改善を試み、ディベート教育の充実、家庭学習ノートの充実、英語力の向上に特化した取組を実施していく。

【 学 校 】

学力全体においては、全国平均を上回っている傾向にあるが、各学年の課題を分析して、さらなる学力向上対策を図っていく。また、ディベート教育を充実させ、ねやがわスタンダードをベースに授業の創意工夫を図り、児童が主体的に学ぶ姿勢を育てていく。